

屋根葺替工事 Vol.7

・茶室「憶昔」の修復 2018. 10. 22

「憶昔」は1795年に飛雲閣に増築された茶室で、屋根工事として、庇の補修、こけら葺屋根の葺替を行っています。

憶昔の庇の天井は、竹を藤蔓で組み、薄い板をはった化粧天井です。屋根を美しく葺くためには、この化粧天井の上に直接屋根を葺くので、竹組を綺麗な平面に仕上げることが重要です。しかし、竹は一本一本が個性をもっていて、成形した木材のように真っ直ぐではありません。また、状態の良い竹は再利用し、新旧様々な竹を組み合わせるため、庇天井の修復はとても高度な技術が要求される作業となりました。



▲憶昔外観(修復前)



▲憶昔内部(修復前)



▲解体された憶昔屋根



▲新しくこけらが葺かれた憶昔屋根



▲美しく組み立てられた竹組



▲完成した庇の天井